

## シリーズ 照葉樹林の自然


 海士町文化財保護審議会  
講座

ピロウドマイマイ

今

回は、前号に引き続き「照葉樹林」に生息する陸貝について書きます。海士町内で、照葉樹林の減少に伴って自然度が高いと思われる森林がごくわずかになってきていることは前々号でもお話した通りです。そのような状況の中、昨年12月に家督山周辺を調査したときに大変貴重な種が見つかりました。「ピロウドマイマイ」の仲間です。隠岐諸島では「オキピロウドマイマイ」(*Nipponochloritis okiensis*)が生息していることは以前から知られておりますが、この貝は島後地区のみに生息するとされる隠岐固有種です。島後でも生息数が極めて少なく生息地も限られ、年々減少しているといわれています。今後環境の変化により存続がかなり危ぶまれることから、島根県、環境省共に絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)に選定されています。殻の高さ18~19mm。殻は著しく扁平で、濃い暗褐色をしており、殻の表面は全体的にやや粗い微毛でおおわれています(※1)。微毛でおおわれている様子が生地のピロードを連想することからピロードと命名されたのではないかと思います。今回海士町内で発見されたのは、ピロウドマイマイの仲間であることは間違いないものの、「オキピロウドマイマイ」であるのかどうかは現段階ではよく分かっておりません。なぜなら、まだ生貝1固体と死貝3固体のみの確認であり、厳密に同定する為にはサンプルが不足しているからです。しかし、隠岐諸島内の島後以外の地区でこの仲間に関する近年の確認報告は皆無であることから、海士町でこの仲間が生息していること事態が大発見なのです。➡

➡ この貝が見つかった環境は前号で書いたように、リターンマット(腐葉土)が積もり適度な湿度が保たれている、陸貝が生息するのに適した場所です。しかし、この森の周辺は牧場として利用するため森林を伐採しており、将来にわたり生息していくには危機的な状況であることは確かです。この貝が発見された森には、同じく陸貝でキセルガイの仲間である「ユウグレナミギセル」(*Stereophaedusa japonica vespertina*, 下写真)も生息しています。この貝も隠岐の固有種です。隠岐に生息するキセルガイの仲間の中では最大で殻の長さ32mmもあります。生息する地域は先述の貝とは逆で、島後には生息せず島前のみ分布となっており、しかも西ノ島町のみとされておりました(※2)。ところが、ここ数年にわたる我々の調査により、海士町内にも生息していることが初めて分かりました。このキセル貝は、この森以外にも御波区、保々見区、東区の3ヶ所生息地を確認しました。他の場所では全く見られないのにそこには多産しています。生息に適した環境を整えば数が増える陸貝のようで、絶滅に瀕している生物を保全するための手法として生息環境を整えることの重要性をととも感じます。



(海士町文化財保護審議会委員 深谷 治)

※1 改訂しまねレッドデータブック2014動物編  
(島根県環境生活部自然環境課、平成26年3月発行)

※2 改訂しまねレッドデータブック  
(財)ホシザキグリーン財団、平成16年3月発行)